



俱利伽羅古戦場



猿ヶ馬場平家本陣跡の維盛が軍議をしたと伝える大岩

治承4年（1180）、以仁王が発した平家追討の令旨に応じて信濃国木曾で源義仲が挙兵し、木曾から北信濃、北陸で味方する兵を集めながら北陸道を通って京を目指した。

寿永2年（1183）4月、平家方は平維盛を総大将に10万の大軍で義仲追討のため北陸道に出陣した。5月9日、越中国砺波郡の般若野まで兵を進めていた平盛俊は、義仲配下の今井兼平に奇襲を受け退却する（般若野の戦い）。翌10日、後退した平家軍は志雄山に平通盛、平知度が率いる3万と7万の礪波山（俱利伽羅峠）の二手に分かれて着陣した。11日、源氏方は源行家、樋親忠を志雄山に向かわせて平家方を牽制し、義仲本隊は5隊に分けて東麓から礪波山に進攻する。さらに樋口兼光の別働隊が秘かに平家軍の背後に回り込んで挟み撃ちを狙った。平家軍が寝静まった夜半に、突如大きな音を立てながら源氏軍が一斉に奇襲を仕掛ける。不意を突かれた平家軍は逃げ惑い、さらに西の退路を樋口兼光に塞がれて、敵のいない方向に雪崩打つように逃げると、そこは断崖絶壁の地獄谷で平家方は次々と谷底へと転落して壊滅状態となり、維盛は京へ逃げ帰ることになった。

俱利伽羅合戦の名所・史跡として、平維盛が本陣を置いた猿ヶ馬場の本陣跡、平家軍が陣を敷いた源氏ヶ峰城、木曾義仲が戦勝祈願した埴生護國八幡宮（小矢部市埴生）、平家方の平知度が自害した地に建つ首塚（津幡町平谷）などがある。春の俱利伽羅峠は八重桜を見に多くの人が訪れる。

合戦地：石川県河北郡津幡町俱利伽羅、富山県小矢部市埴生・松永（俱利伽羅峠）

対戦者：平維盛（平家） vs. 木曾義仲（源氏）

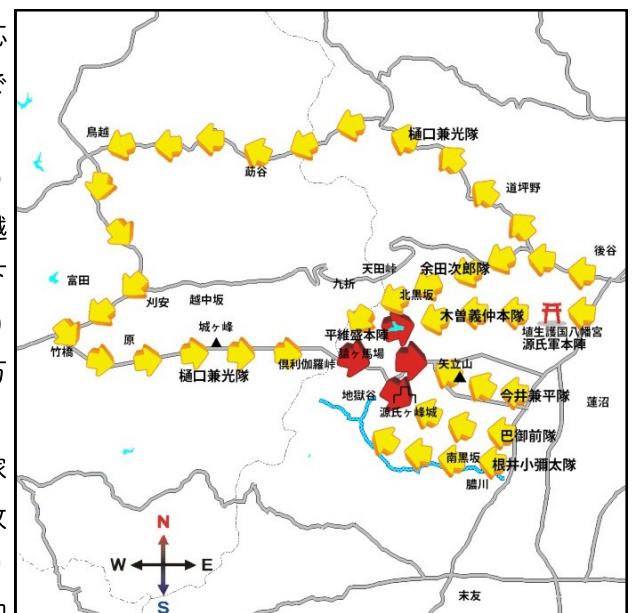
軍勢：平維盛軍 約70000

木曾義仲軍 約41000

開始年：寿永2（1183）年5月

「俱利伽羅峠の戦い（礪波山の戦い）」は、平清盛の嫡孫、平維盛が率いる平家軍と木曾義仲率いる源氏軍が加賀・越中国境の俱利伽羅峠で対戦した合戦です。

「源平盛衰記」に記される角に松明をくくりつけた数百頭の牛が突撃する火牛の計で広く知られている。



古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ

北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）

〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9

TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943

E-MAIL. contact@j-sampo.com

ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>